

## 第19回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

### 1. 日程

日時:平成27年3月16日(月) 11:20~13:50

場所:Jヴィレッジ アルパインローズ

### 2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

原子力災害現地対策本部:後藤副本部長

復興庁:豊島次長(福島復興局)

文部科学省:西田放射性廃棄物企画室長

農林水産省:安岡研究調整官(代理)

農林水産省水産庁:中津研究指導課長

国土交通省:五十嵐河川環境課長

環境省:二村水環境課長

廃炉・汚染水対策チーム:糟谷事務局長補佐、吉田事務局長補佐、

江口対策官、豊口企画官

廃炉・汚染水対策現地事務所:野田所長、木野参事官、遠藤調整官、

岡山対策官、小野対策官、小形汚染水対策官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構:松永所長、有賀審議役

東京電力:新妻福島復興本社副代表、増田廃炉推進カンパニープレジデント、有馬バイスプレジ

デント、白川福島第一原子力発電所ユニット所長

福島県(オブザーバー):玉根生活環境部次長

規制当局(原子力規制庁):山田審議官、持丸地域統括管理官

### 3. 結果概要

#### (1) 議長冒頭挨拶

○本日も、年度末で御多忙の中、お集まりいただき感謝。

○事故発生から4年が経過しました。前回もご紹介したように、2月に来日したIAEAミッションからは対策が前進し、状況が改善しているとの評価を頂いている。また、今朝、私自身も、協力企業3社の朝礼に参加し、作業員を激励するとともに、現場を視察したが、現場では多くの作業が進行し、状況は非常に良くなっていると感じている。

○このように、対策は着実に進み、リスクも低下してきていますが、作業員の死亡事故やそれに伴う工事工程の遅れ、汚染水浄化処理の遅れ、汚染された雨水の港湾外への流出などの

報道が続いており、いまだ地元の皆様や国民の皆様に、安心して頂けているとは言えない状況。

○そこで、今回は、今年度最後の現地調整会議ということもあり、①現在実施中の各対策の今後のスケジュール、②汚染水浄化処理の今後の見通し、③雨水排水路の問題を踏まえて開始したリスクの総点検、の3点について重点的に審議していきたいと思うので、活発なご議論をお願いします。

①現在実施中の対策のスケジュールについては、死亡事故を受けて実施した安全点検の影響を受け、スケジュールにどのような影響があるか、関心の高いところ。そのため、陸側遮水壁の山側先行凍結開始、高濃度汚染水が滞留している海水配管トレンチからの汚染水の除去など、重要かつ注目の大きい対策を中心に、今後のスケジュールについて報告を受け、審議したいと思う。

②汚染水浄化処理の今後の見通しについても、関心が高い。3月までの完了が難しいとの報告を受けた際、東京電力では、3月中旬には今後の見通しを示すこととしていたので、いったん浄化を完了した後の処理の方針も含め、報告を受け、審議したいと思う。

③リスクの総点検については、汚染された雨水が排水路を通じて港湾外に流れていたことをきっかけとして指示したが、本日はその中間報告をお願いします。汚染された雨水は、これまで主に対象としてきた高濃度汚染水と比べれば、はるかに低濃度ですが、対策が進み全体のリスクが低下していく中、低リスクの問題にも注目が集まるようになってきている。リスクの総点検は、リスクの大小に関わらず点検の対象を広げ、新たなステージに向けた取り組みとして重要なものを考えているので、情報公開のあり方も含め、しっかりと審議したい。

○その他、水質のモニタリングの結果や、各種対策の進捗状況などについても報告を受けるが、本日も、活発な御意見、徹底した議論をお願いします。

## (2) 会議概要(主な指摘事項)

### **議題 2**

<資料 1 - 2 >

- 1号カバーの解体については、強風の定義は何か、瞬間風速か平均風速か、どのタイミングで飛散防止剤や緊急散水を行うか等の運用基準を明確にすべき。

### **議題 6**

<資料 1 - 6 >

- ▶ 排水路のゲート電動化について、ゲートを閉じるボタンを押すかどうかの判断基準を明らかにすべき。現場の所員の判断に任せてしまうのは、個人の責任が重すぎてうまく機能しないと思われる。例えば河川管理施設の場合、ゲートの開閉など細かく操作規則が定められている。一部は現場の判断に委ねることも必要だろうが、まずは排水路のゲートの開閉もマニュアル化することでゲート開閉の考え方を明確化すべき。

### 議題 8

<資料 1 - 8 >

- ▶ K排水路の未公表など、こういう問題が全国レベルで報じられることは県民への影響が大きい。環境に影響のある測定がされた場合は速やかに情報公開をすべき。二度とこのようなことがないように申し上げる。国は東電への指導を徹底してほしい。
- ▶ 難しい問題については時期を切って調査・対策を行い、情報を現地調整会議で確認しながら進めていくべき。
- ▶ リスクの総点検では追加対策の必要性をまずは判断する。項目などに、漏れがないかお気づきのものがあれば指摘をお願いしたい。

### 議題 10

<資料 1 - 10 >

- ▶ 情報公開のあり方については、単にデータを出すというのではなく、状況が改善していることがわかるように示すべき。また体制強化を行うべき。

### 議題 11

<資料 2 >

- ▶ 汚染水処理の遅れは、避難民の帰還判断への影響や、福島復興の遅れへと影響がでる。ALPSが性能を出して汚染水の処理を完了できるよう、今後の汚染水処理の定量的なスケジュールを示して欲しい。

### (3) 次回以降の日程

○次回は4月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)